

48<sup>th</sup>

令和3年度11月号 [11月15日(発行)]

校訓 自主・協同・創造



岸川中だより

川口市立岸川中学校  
川口市安行領根岸374番地の1  
TEL268-4506 FAX268-4761  
特別支援学級 TEL268-7110  
さわやか相談室TEL268-4510  
<https://kishikawa.official.jp>

## 相対時間と絶対時間と日本人の感覚と……

校長 松田 隆幸

またまた、日曜日のお気に入りのラジオ番組からのこぼれ話です。

今の日本は、誰もが、世界が認める定刻主義の国民性と表現できるであろう。ここまで時間に正確になったのは、前号でも触れた通り、新幹線を代表とする鉄道業界の力は絶大であろう。誰もが、定刻に出発し、到着することを当たり前と思っている。車内清掃担当、保線担当を初めとするすべての関わる人々がそれを当然と考える。やがて定着すると、電車に乗らない人でさえも、電車は定刻で運転していることをあたりまえと考える。最近の電車到着の時間表示は、「次の電車が来るまで、あと何分です」と表示している。これは、相対的な時間の表示の仕方だそうだ。「次の電車は何時何分発です」でもいいのだろうが、最近は「あと何分」と表示している。これは、定刻で運行していることが前提となったことと、人の忙しさ、時間に対する要求からこのような表示になったのだと言われている。人は、時計を観る回数が多いほど忙しく感じてしまう。あと何分……。1分の感じ方も人によっては、長く感じる人、短く感じる人という。次まであと何分と示した方が、人によっては、時計を見ることもなく、イライラ感を与えることも少ないと言うのだ。

実は、日本人はその昔、時間にはルーズであった。今からは考えられないことだが、さかのぼること、明治時代のお話。富国強兵政策で、大勢の外国人技師達が日本に来た頃のお話。明治政府から雇われていた外国人が揃って嘆いたという。時間にあまりにもルーズだと。それもそのはず、当時の人々が時を知るのは、お寺の鐘。鐘は2時間毎に突かれるので、その感覚的な誤差は大きなものであったであろうし、時間をそこまで気にはしなかった生活があったと思われる。そこで、明治政府は、国家全体を近代化する上での手段として、国民の時間に関する感覚の改善を行った。登校時間は15分の範囲内で登校させるよう定めたという。当然朝の起床時間、ご飯の時間から、家に帰ってからの就寝時間も当然だが、起床が決まっている以上おおよそ、決まった時間に寝るであろう。こうやって、学校が担ってきた時間に関する日本人の考え方や生活習慣への影響は少なからず……と言ったところであろう。

しかしである。当てもそうだが、「終わる時間」に関しては、決められていなかった。鉄道は、終点前を定刻で出発できていれば、ほぼ、定刻に終点に着き、運行(業務)を終える事ができるものだし、次の折り返し運転に備えることもできる。前出の学校が時間を守る意識を高めたことは確かだが、学校もご多分に漏れず、「仕事終わり」の時間がなかなか固まらない(勤務時間は決まってはいるものの、部活動・成績処理・授業準備・生徒指導に関する事案等々により、なかなか退勤時刻を「定時」化することができなかった)。だが、徐々にではあるが、学校も時代に乗れるようになってきた。ある時間での留守番電話切り替え、印刷配布物等はメール等へ、実は出席簿も昔と違ってPCへ入力、調査書等も当然のことながら、PC内で作成……。働き方改革は学校もご多分に漏れず、その対象。だが、家庭の生活時間と学校の時間の差をなかなか容易には埋められない。こんな場面こそICTの出番となるのか？全国の学力調査もゆくゆくはPCで実施し、採点も……。試験を行うと同時に「あと何分で採点が終わります」という時代がすぐそこまで来ているのかも？

令和5年岸川中学校は創立50周年  
2023 Kishikawa.J.H.S 50<sup>th</sup> ANNIVERSARY